秋田市大森山動物園情報誌

コミュニケーション

No.103
2022.3月号

ちょうどいいから住みやすい！ 秋田市LIFE
市民と広げるまちへの語りと愛着

秋田市大森山動物園
あきぎん オモリンの森

Contents

P2~3　園長あいさつ／こんにちは! あかちゃん／移動動物訃報／飼育動物数
P4~7　【特集】 **アムールトラ飼育の歩み**
P8~9　飼育レポート／トレーニング技術の共有
P10~11　イベントレポート／今後のイベント
P12　飼育日誌／お客さまの声／かたばた通信

アムールトラの令

園長あいさつ

未来を考えつつの春開園

園長　小松　守

3月に入りお日様の力が増し始めると、雪に閉ざされていた秋田の人々は春の到来を待ちわびているように見えます。啓蟄（けいちつ）ではありませんが、春の動物園開園は子どもも動物も活発に動き始める時期とどこか重なり、北国秋田の春の風物詩的イベントにもなっています。

今シーズンは1973年の大森山動物園創立から数えて49年目にあたり、50周年を祝う大事な準備の年でもあり、未来に向かう動物園像を描く、いつも以上に大事なシーズンになりそうです。半世紀前に創立された大森山動物園の原点は、大森山公園山頂からのすばらしい展望と豊かな緑に恵まれた自然環境で子どもの夢を育む「こどもの国」でした。未来の大森山動物園についても、この原点を大事にしながら、秋田にあって多様な動物と出会える場として、時代と共に変わる動物園へのさまざまな求めを見据え、地域社会にどう寄与し、その存在意義を高めていくかを考えていきたいものです。未来を担う次世代スタッフを中心に考えてもらいたいと思っています。

自然から離れがちな現代社会にあって、動物とのふれあいを通した楽しい動物園体験はますます重要度が高まるはずです。今シーズンも大森山動物園をどうぞよろしくお願い申し上げます。

動物と間近でふれあい

こんにちは！

あかちゃん

2021年8月以降に大森山動物園で生まれた赤ちゃんをご紹介します。

チリーフラミンゴ

2021年８月14日に生まれました。巣立ちをしていても、親にエサをおねだりするなど、甘えん坊な一面もありますが、順調に成長しています。9ページの飼育レポートもあわせてご覧ください。

フクロテナガザル

2021年11月24日にオスのパパイヤとメスのワタルの間に生まれました。当園では初めての繁殖です。お母さんのワタルが子育て上手のため、すくすくと順調に育っています。

よろしくね！

仲間入りした動物たち

メープル／メス

カナダヤマアラシ

2021年11月１日に浜松市動物園から来園しました。当園のモズク（オス）との繁殖に取り組みます。恥ずかしがり屋なのか、部屋でじっとしていることも多いですが、実は鳴き声がとてもキュート。8ページの飼育レポートもあわせてご覧ください。

元気でね！

大森山を後にした動物たち

秋空（あきら）／オス

ニホンイヌワシ

イヌワシ飼育下個体群における遺伝的多様性を維持するため、2021年10月20日に東京都の多摩動物公園へ移動しました。秋空の母親は、秋田県内で保護された野生個体です。今後の繁殖に期待しています。

この他、ヨーロッパフラミンゴが香川県のしろとり動物園へ、ホンドフクロウが東京都の多摩動物公園へ移動しました。

忘れないよ…

訃報

オオハシくん／オス

サンショクキムネオオハシ

10月15日に亡くなりました。2015年に神戸市立須磨海浜水族園から来園し、特徴的なエサの食べ方が愛らしく人気者でした。なでられるのが大好きで、飼育員の手にすり寄ってくる甘えん坊でした。

キョン

12月８日に１歳半で亡くなりました。ピョンピョンと跳びはねるような歩き方に愛嬌があり人気者でした。

サツキ／メス

ワタボウシタマリン

１月10日に亡くなりました。2008年３月に甲府市遊亀公園附属動物園から来園し2014年には子どもが生まれ、お父さんになりました。昔の新世界サル舎、小動物舎と引っ越し、最後は動物病院で穏やかに暮らしました。25歳の大往生でした。

ランディ／オス

アフリカタテガミヤマアラシ

１月17日に亡くなりました。2000年３月17日に来園し、当園で初めて飼育したヤマアラシです。一緒に来たオスのリュウ（2015年死亡）との間に12頭の子どもを産みました。５頭の子どもたちが他の動物園に巣立っていきました。

ワヤ／メス

ハクビシン

2001年に当園で生まれ、約20年間を過ごしましたが、10月27日に亡くなりました。ほかの個体たちと、ひなたぼっこしている風景に癒やされました。

イチコ／メス

キリン

以前から貧血などの症状が見られ、継続して治療にあたってきましたが、2021年末に症状が悪化し、１月２日に亡くなりました。2012年に長野市茶臼山動物園から来園し、2020年にはリンリンとの間にケイタが誕生するなど、当園を大いに活気づけてくれました。次号で詳しくお伝えする予定です。

カンタ／オス

この他、ワオキツネザル、フンボルトペンギン、ボリビアリスザル等が亡くなりました。

飼育動物数
（2021年12月末現在）

哺乳類	50種	334点
鳥　類	25種	130点
爬虫類	13種	31点

両生類	4種	11点
魚　類	3種	23点
無脊椎	1種	23点

合計
96種　552点

トラ特集

アムールトラ飼育の歩み

エレガントさと独特なシマ模様が魅力の力強いトラは、いつも大森山動物園のスター的存在です。
寅年特集として、スタッフがいろいろな切り口でご紹介します。飼育展示継続は、大きな意味でトラという動物の種の保存にも寄与し、また動物理解などにもつながってきたものと思います。

園長補佐　**三浦 匡哉**

当園では、1973年の開園当初からベルガルトラを飼育していましたが、2003年からは猛獣舎「王者の森」の完成を機に、公益社団法人日本動物園水族館協会（JAZA）が種の保存に力を入れているアムールトラの飼育展示に向け準備を始めました。アムールトラはシベリアや中国東北部に生息する動物なので、比較的秋田の気候に慣れやすいということもありました。

2004年にベンガルトラの寅次郎が亡くなり、翌年アムールトラのウィッキーが来園しました(1)。その翌年、ベンガルトラのマドンナが亡くなったため、2007年にアシリを導入し、アムールトラの繁殖に本格的に取り組む準備が整いました。

担当者の努力や苦労の甲斐もあり、2008年３月に初めて繁殖しました(2)。それがアルルとミルルです。２頭はすくすく育ち、大人のトラ１頭用の寝室に親子が収まらないのではと心配していましたが、そのタイミングでアルルにパートナーが見つかり、2009年６月に広島市安佐動物公園に、ミルルも2011年３月に福山市立動物園に旅立ちました。

ウィッキーとアシリの間でもう１度繁殖に挑もうとしましたが、ミルルが旅立ってから３か月後に残念ながらウィッキーが亡くなってしまいました(3)。

同じ年の2011年秋にはアシリの孫にあたるヒロシとアサコが安佐動物公園からやってきました(4)。アサコについては、管理計画により、和歌山県のアドベンチャーワールドへ翌年６月に移動しています(5)。

2015年５月にアシリが亡くなった後(6)、ヒロシのパートナーとして2016年３月にロシアからカサンドラがやってきました(7)。アルルとミルルの誕生からすでに８年が経過し、久々の繁殖への取り組みだったため、準備を整えて慎重に見合い、同居を行いました(8)。その後カサンドラの発情のタイミングに合わせて同居を重ね、2019年２月に初めて出産にこぎ着けましたが、初めてのお産で不慣れなこともあり、残念ながら生まれた子どもは全て死んでしまいました(9)。３か月ほど間を空けてから次の繁殖に向けて同居を行いました。念願がかない同年９月29日、11年ぶりに４つ子が生まれたのです。カサンドラは献身的に子育てを行い、子どもはすくすくと順調に成長していきました(10)。４頭はそれぞれ令和の元号に由来の令（れい）、和（なごみ）、風（ふう）、月（つき）と名付けられ、人気者になりました。

アムールトラ管理計画により、2020年６月にヒロシと月(11)が、2021年３月には、和と風(12)がそれぞれ繁殖を目的に他園へ旅立ちました。

アムールトラという種を日本国内で維持していくために、残った令もいずれ他の動物園に旅立つでしょう。カサンドラには次のパートナーとの間で新たな命を産み、育ててもらうことを期待しています。

さらに詳しく知りたいかたは、コミュニケーションのバックナンバーでご覧いただけます♪
＊（　）＝発行号
（１）＝No.69、（２）＝No.76,78、（３）＝No.82、（４）＝No.83、（５）＝No.84、（６）＝No.90、（７）＝No.92、（８）＝No.95、（９）＝No.98、（10）＝No.99、（11）＝No.100、（12）＝No.102

大森山アムールトラ家系図

大森山で飼育してきたアムールトラの家系図です。動物園のアムールトラは、1頭1頭がその血統を登録されています。登録された血統をもとに国内のトラが血統に偏りなく命をつないでいけるよう繁殖計画が立てられています。

ウィッキー（オス）

1999年12月28日生まれ、富士サファリパーク出身（静岡県）

2005年3月12日に富士サファリパークから来園

※2011年6月16日死亡

性格:温厚な性格。周囲でどんな事が起きてもどっしりと落ち着いている。

アシリ（メス）

1999年3月27日生まれ、ベルリン動物園（ドイツ）出身

2007年6月8日に多摩動物公園から来園

※2015年5月27日死亡

性格:頭が良く、好奇心旺盛。

バイコフ

アルル（メス）

2008年3月6日生まれ

※2009年6月18日に広島市安佐動物公園へ引っ越し

性格:体が大きく、父親に似たおっとりとした性格。

ミルル（メス）

2008年3月6日生まれ

※2011年3月24日に福山市立動物園（広島県）へ引っ越し、現在は周南市徳山動物園（山口県）

性格:母親に似て活発的。運動神経も抜群。

ミライ

ノゾミ

アサコ（メス）

2011年4月4日生まれ、広島市安佐動物公園出身

2011年10月18日に安佐動物公園から来園

※2012年6月19日に和歌山アドベンチャーワールドへ引っ越し

性格:叔母のミルルに似て運動神経抜群。

ヒロシ（オス）

2011年4月4日生まれ、広島市安佐動物公園出身

2011年10月18日に安佐動物公園から来園

※2020年6月30日にとくしま動物園へ引っ越し。同年12月25日死亡

性格:体は誰よりも大きいが、少し臆病な性格。

カサンドラ（メス）

2014年5月25日生まれ、ノボシビルスク動物園（ロシア）出身

2016年3月17日にノボシビルスク動物園から来園

性格:来園当初は臆病で警戒心が強かったが、子どもが生まれた途端、穏やかな性格になった。

令（れい・オス）

2019年9月29日生まれ

性格:人懐こく、友好的な性格。来園者に対し、鼻を鳴らして挨拶をする。

和（なごみ・メス）

2019年9月29日生まれ

※2021年3月4日に長野市茶臼山動物園へ引っ越し

性格:怖い物知らずで、血気盛ん。日々起こる姉弟喧嘩のきっかけを作っていた。

風（ふう・オス）

2019年9月29日生まれ

※2021年3月15日に大阪の天王寺動物園へ引っ越し

性格:見た目も性格も父親似。かなりマイペースでおっとりしている。しょっちゅうエサを姉弟に横取りされていたが、なぜかからだは誰よりも大きい。

月（つき・メス）

2019年9月29日生まれ

※2020年6月22日にいしかわ動物園へ引っ越し

性格:好奇心旺盛で活発的。いたずら大好き!

★今後、この家系図が先につながっていくのが楽しみですね ☺

トラ特集

歴代飼育員から

これまでアムールトラの飼育を担当してきた歴代の飼育員に、思い出深い出来事などを聞きました。

2007年～2008年担当

飼育展示担当　宇佐美 均

2007年６月、多摩動物公園からアシリが大森山にやってきました。ウィッキーとペアになってもらうため、同居に向けた日々の観察が始まりました。

通常、大型ネコ科の動物を新たに同居させる場合は、個体の安全確保を優先しながらメスの発情期に行います。アシリとウィッキーも同様で、アシリの発情期を見極めながら同居を行いました。２頭はとても相性が良く、じゃれ合ったり寄り添ったりする行動が多く見られました。その後、繁殖行動も見られたことから、妊娠を想定した準備を始めました。そして2008年３月、当園では初めてとなる赤ちゃんが誕生したのです。

これまで、当園の気候風土での管理や同居の時期、妊娠の兆候・見極め、出産準備などは全く初めてだったため、経験豊富な動物園にしつこいくらい連絡し、さまざまなご教示をいただいたことを思い出します。アシリとウィッキーはその後天寿を全うしましたが、親子がいたときの賑やかな光景は今でも忘れません。ありがとう。

アシリ(左)とウィッキー

2007年～2021年担当

飼育展示担当　奥山 麻裕子

これまで11頭のアムールトラを担当しましたが、その中でも記憶に残っているのは、初めての担当動物であるオスのウィッキーです。体が大きく力強い眼光で、のしのしと展示場を闊歩する迫力ある見た目とは違い、かなり温厚な性格のトラでした。もちろん、温厚な性格と言っても大型の肉食動物ですので、作業を一つ間違えると確実に大事故になります。毎日細心の注意を払い、緊張感を持って飼育を行いました。

温厚な性格のウィッキー

当初、私がイメージしていた猛獣は、「唸り声をあげ続けて人間を威嚇する獰猛な動物」でした。しかし実際に飼育してみると、同じネコ科のライオンと比べトラは穏やかな性格で、正しく飼育管理をしている限り人間に対して一方的に威嚇してくるということはありません。特にウィッキーは他のトラと比べてもかなり大らかな性格で、怒った時の唸り声は亡くなるまで一度も聞いた事がありませんでした。動物のイメージにとらわれず、個体を正しく理解し飼育を行うことの重要性を教えてくれたウィッキーは、2008年にアシリとの繁殖も経験させてくれました。2019年には、ウィッキーのひ孫にあたる４つ子の繁殖にも成功し、オスの令を見ていると、ひ孫たちに彼の温厚な性格は確実に引き継がれていると感じています。

2021年５月～現在

飼育展示担当　佐々木 祐紀

アムールトラの担当になって約9か月が経ちました。以前の古い猛獣舎の時にベンガルトラの担当をしていましたが、現在の猛獣舎になり、アムールトラの飼育を開始してからトラの担当になったのは久々です。これまでも猛獣舎を含む班には属しており、担当が休んだときに、代番としてトラの飼育をすることは時々ありましたので、その経験を活かし日常の管理は問題なく行えました。

しかし、主担当となると話は別で、個体の健康管理のためにもエサの改善も含め、前担当とも話し合いながら、よりよい状態になるように努力することが必要となります。現在は、母親のカサンドラと2019年生まれのオスの令がいます。トラは本来、単独生活の動物のため、動物園でも基本1頭のみの展示となります。新たな展開としては、令を他園へ移動させ、カサンドラに新たな相手を迎えることが、アムールトラの種の保存に繋げるための今後の課題となります。

誕生日の令に馬肉をプレゼント

展示場の昔と今

園長補佐　三浦 匡哉

2003年以前は、トラなど猛獣を展示する施設は総合動物舎という名前で、1973年の開園当時からの建物でした。当時の施設は猛獣を横並びに配置した長屋的なもので、新築工事に伴う解体直前には、ツキノワグマ、シンリンオオカミ、ヒョウ、ジャガー、ユキヒョウ、ライオン、トラ、チンパンジーを展示していました。

寝室は比較的広かったものの、展示場は昔ながらのコンクリートの床に鉄檻というスタイルで、幅6m、高さ3.5m、奥行き4m、動物の習性や運動などの健康面を考えると、面積・高さとも十分ではありませんでした。トラの展示場には当時の猛獣舎では数少ないプールが設置されていましたが、こちらもトラにとって快適なものかどうかは微妙なものでした。

2003年に猛獣舎をリニューアルし、現在の「王者の森」が完成しました。展示場の広さは以前の約5倍で、土の上に竹などの植栽があり、プールも広々とした快適なものになりました。暑さが得意でないアムールトラは、夏にはプールに入って体を冷やしたり展示場の真ん中に設置した櫓（やぐら）で、ゆっくりくつろいだりできます。

近年、動物福祉という言葉がよく聞かれるようになりました。「王者の森」は以前の「総合動物舎」に比べると、動物たちにとってだいぶ暮らしやすい施設だと思います。今後はソフト面でも動物の生活の質を上げられるように、飼育担当者は工夫を重ねていきます。

以前の展示場（1973～2002年）

現在の展示場「王者の森」（2003年～）

アムールトラの飼育を取り巻く現状

獣医師　髙橋　拓

2021年3月末現在、日本では24園館で55頭のアムールトラを飼育しています。アムールトラの血統管理は厳格で、国内の血統に偏りが無いように繁殖計画を立てなくてはなりません。日本動物園水族館協会（JAZA）では海外の動物園と協力して新しい血を日本に入れ、遺伝的多様性を保っています。当園でも計画管理のもと、2016年3月にロシアのノボシビルスク動物園から導入したメスのカサンドラは、無事に4頭の子を出産し育て上げ、国内の繁殖に貢献しました。体の大きなオスのヒロシとメスの割に体長のあるカサンドラの間に産まれた4頭の子どもは、とても体格に恵まれすくすくと育ちました。当園で生まれた子達が、全国の動物園でまた子孫を残し、その子達の成長を見ることを今から楽しみにしています。

これからの展望としては、カサンドラの相手となるオスの導入です。現在、国内複数の動物園で海外から導入した個体の遺伝子を残すためにペアリングを頑張っています。アムールトラの飼育園が増えると更なる繁殖が期待出来ますが、現状では難しいところです。

そのチャンスが来るまで、私たちが出来ることは飼育技術と繁殖技術の維持向上に努めていくことです。トラを長生きさせるために、ハズバンダリートレーニングを含めた更なる健康管理方法を考え、動物の福祉のためにトラの飼育環境を整えて行きます。

大森山動物園は、アムールトラが生息している場所と同じように冬には雪が積もるため、野生に近い環境での姿が見られます。これは全国的にも珍しいことだと思いますので、ぜひご来園ください。

四つ子とカサンドラ（2020年1月撮影）

飼育レポート

ルイの屋外展示場デビュー

獣医師　小川 裕子

ルイは11歳のメスのチンパンジーです。横浜市立野毛山動物園生まれで2017年の冬に大森山へ来ました。翌年の春、屋外展示場に慣らす訓練の際に１頭で外に出したところ、初めての展示場で不安になりパニックになって以降、屋外展示場へ出てくれなくなりました。

2021年の春、「今年こそはルイに屋外展示場を好きになってもらい日光を浴びてもらう」と目標を立てました。ルイは16歳のコタロウと仲が良く同居できるので、コタロウが先に屋外展示場に出て、ルイを誘い出してもらう作戦を日本動物園水族館協会（JAZA）チンパンジー専門技術員の方など、他園の方々に相談し決定しました。

訓練に入る前は、屋外展示場の全体像をルイに把握してもらうため、展示場の様子をビデオ撮影して見せるなど工夫しました。そして６月中旬、緊張の１回目の訓練（10分間）を実施しましたが、ルイは寝室から外へ続く通路から動かず、外には出ませんでした。しかし、屋外展示場にいたコタロウが何度も優しくルイに近づき挨拶し、リンゴを運んで来て、「外にリンゴがあるから行こうよ」と誘う様子が観察でき、感動の10分間でした。

少しずつ訓練の時間を延ばし、７月下旬には数秒ですが全身を外に出すことが出来るようになりました。９月上旬には、より行動範囲が大きくなり10月下旬に訓練終了としました。

現在は、屋外展示場にあるフィーダー（餌が入っている道具）まで出てきて、枝を上手に使ってエサを取れるようになりました。しかし、まだ精神的余裕がないため、すぐに寝室に続く通路に戻れるようにドアは開けたままにし、ルイは気の向いた時しか屋外展示場にいませんが、個人的にはそれで十分だと思っています。

何年かかったとしても、ルイが心のままに、のびのびと屋外展示場で過ごし、櫓の上に登って近くの展示場にいるキリンを眺める日がくると信じています。

ルイ（左）とコタロウ

カナダヤマアラシのお見合い

飼育展示担当　國井　博

カナダヤマアラシの繁殖は、各園が個別に飼育していても限界があるため、浜松市動物園と名古屋市東山動植物園、当園の3園で個体を交換し繁殖を目指しています。2021年11月1日には、浜松市動物園からメスのメープルがオスのモズクとの繁殖のために大森山に来てくれました。カナダヤマアラシは、国内の動物園でも数頭しか飼育されていないので繁殖に期待がかけられます。

メープル（10歳）とモズク（12歳）はお互い高齢ですが、環境の変化を乗り越えて秋田の気候にもなじみながら、ゆっくりと相性の良いペアになってくれるように願うばかりです。私も精一杯愛情を込めて飼育し、良い報告を全国の皆さんに伝えられるように頑張りたいと思います。

モズクとメープル（右）、初めての同居訓練

チリーフラミンゴの新ペア誕生!

飼育展示担当　堀籠 麻子

2021年の春、チリーフラミンゴのペアが誕生しました。オス4歳とメス推定36歳のペアで、人（鳥？）生経験豊富なメスにリードされ、オスは後ろをついていっているような感じです。そんな2羽も夏頃に初めての産卵、抱卵を経験。ただ、当園のフラミンゴの営巣地は奪い合い必至です。このペアは負けてしまい、卵を置き去りにして巣から追い出されてしまう苦い経験を味わいました。次の繁殖シーズンには育雛まで自分達で達成できるよう見守りたいです。

補足ですが、このペアの血統は当園では貴重なため、ヨーロッパフラミンゴのペアに托卵し無事に赤ちゃんが生まれました（2ページ参照）。現在もすくすく成長しています。ここでは語り尽くせないほど個性溢れるフラミンゴたちを、ぜひ見に来てください。

奪い合い必至の営巣地

トレーニング技術を共有し続けるために

飼育展示担当　柴田 典弘

ハズバンダリートレーニング（動物の健康管理を目的とした訓練）の必要性が認知され、全国で多くの動物に対し実践されるようになっておよそ10年。今では飼育管理の一項目として定着し、技術の高まりも感じられるようになってきました。当園でも早期から積極的に取り入れ、これまでゾウ、キリン、アシカ、ユキヒョウで採血（検査）を行うなど一定の成果を挙げてきましたが、中心となって取り組んできた飼育員は変わっていません。今後、この飼育員が担当を外れた場合、今までできたことができなくなります。一度高めた健康管理技術を低下させることは動物福祉面において著しいマイナス要因となることから、当園では技術の共有を進めやすくするため、上記の動物種においては複数担当者制を導入するなど、健康管理やトレーニングにおいては恵まれた体制となっています。

さて、そのトレーニングを行うために欠かせないのは高いトレーニング技術を持った職員、つまり「トレーナースキル」を持った飼育員の存在です。トレーナーであれば新たに他園から導入された個体や園内で生まれた個体でも、これまでと同等のレベルまで引き上げることができます。つまり、高いトレーニング技術を持ったトレーナーが存在し続けていれば取り組みが途絶えることはありません。しかし、トレーナーの育成は簡単ではありません。すでにトレーニングを実施している個体から全てを学ぶことはできないため、理想は新規導入個体や繁殖個体からのスタートですが、その機会が少ない動物園で「トレーナーの育成」をすることは非常に難しいことです。また、日々のトレーニングは根拠や理論を基に実施していますが、想定外の行動への対処のほか、その動物や個体に合わせて臨機応変に手法を変更するなどの柔軟性が求められます。その柔軟性は担当動物を飼育してきた経験値に大きく左右されるため、トレーニングについて学ぶと同時に対象動物の能力や特性を見極める力が必要不可欠です。

当園では、ハズバンダリートレーニングを継続させるべき飼育管理手法と位置づけ、近い将来のためにトレーナーの育成を強化することにしました。飼育技術と動物の特性を理解するための経験を積み重ねながらも、新たなトレーナーの育成へと大きく踏み出します。令和4年は「できる人が一人いれば何とかなる」から「できる人は何人もいる」への挑戦の年。早速3月の通常開園後、キリンのケイタ（オス1歳）で開始されます。ケイタと共にゼロから新人トレーナーが成長していく姿をどうか温かく見守って下さい。

キリンのトレーニング

イベントレポート

秋の動物ふれあいフェスティバル（10月3日）

恒例の「どうぶつパレード」はお客さまの密集を避けるため実施できませんでしたが、園内10か所に設置したクイズに挑戦する「ウオーククイズ」や、東京オリンピックにちなんで動物たちの身体能力について紹介した「ZOOリンピックパネル展」、ワシミミズクなどの鳥類との記念撮影を、さわやかな秋晴れの中で開催しました。

ウオーククイズ

ワシミミズクと記念撮影

自然観察会（10月10日）

塩曳潟にはどんな生物がいるのかな？

飼育員の手作りクイズで盛り上がり

事前に参加申し込みのあった小学生の親子など12名が、飼育員の案内で、園内の天然沼「塩曳潟」の水生生物や大森山公園の昆虫・植物を観察しました。参加者は自然にちなんだクイズやゲームなども楽しみ、最後は拾ったどんぐりをサルへプレゼントするなど充実した時間を過ごしました。

どうぶつサイエンス（10月17日）

自然科学学習館との共催で実施しました。動物園内の「森のびょういん」を会場に、獣医師による動物の病気やケガの診察の話や、キリンの採血の観察、聴診器を使って小動物の心音を聞くなど、普段はできない体験に子どもたちも興味津々の様子でした。

どんなの動物の骨でしょう？

モルモットの心音、聞こえるかな？

5人で撮る時はこんなカンジで

オブジェ「I LOVE ZOO」完成（11月15日）

秋田公立美術大学コミュニケーションデザイン専攻のべ先生と学生が、縦２メートル、横５メートルの大きなオブジェを制作しました。動物園第３駐車場横の広場に設置され、新たな写真撮影スポットとして人気を博しています。

いい夫婦の日イベント（11月21日）

毎年恒例の「いい夫婦の日イベント」を開催しました。事前に申し込みしていただいたご夫婦やカップルの皆さんに、ヤマアラシのトゲやクジャクの羽根などを使ったオリジナルストラップ作りや、ビーバー夫婦のどうぶつ解説を楽しんでいただいたほか、ポニーとの記念撮影ではパートナーへの日頃の感謝の気持ちをメッセージボードに書いて、お互いの思いを伝え合いました。

オリジナルストラップ作り

ポニーとの記念撮影

さよなら感謝祭（11月28日）

高木美保名誉園長に参加いただき、お客さまや動物たちへ、１年間の感謝を込めて開催しました。セレモニーでは、亡くなったゾウの「だいすけ」などに慰霊の献花を捧げたほか、だいすけを描いた絵画「月象」（作家・小山内愛美さん作）の贈呈式とギャラリートークを行いました。イベントでは、カピバラなど９種類の動物へ無料エサやり体験を行ったほか、ワオキツネザルの展示場内見学など15種類のどうぶつ解説・まんまタイムも行われ、年内最後のイベントを多くのお客さまが楽しみました。

「月象」贈呈式（左から小山内さん、高木名誉園長、小松園長）

感謝祭セレモニー

雪の動物園（1月8日～2月27日の土日祝日）

今年で16回目となる「雪の動物園」を開催しました。普段は見ることができない冬の動物たちの様子や、トナカイ・ポニーの園内散歩、カピバラの湯っこなどの冬の風物詩を楽しみました。寅年にちなんだ干支展も開催しました。

トナカイの園内散歩

カピバラの湯っこ

今後のイベント

3月19日（土）～11月30日（水）

2022年通常開園
※期間中無休

飼育日誌

8/1	ミニブタ	とん平♂、前日から午前まで排便なし、午後排便あり。午後と夕方残餌少量あり。
	タンチョウ	お市♀、上嘴５㎝折れる。
	ワオキツネザル	闘争で負傷した、ハルちゃん♀を個別ケージで隔離する。
8/2	ミニブタ	とん平♂、15時頃てんかん発作あり。程度は通常と同じくらい。排便は乾燥粒便。投薬あり。
8/3	チンパンジー	ボンタ♂、射精物を大学へ送付する。
8/5	キリン	リンリン♀とケイタ♂の同居訓練実施。
8/12	キリン	初めて３頭同居訓練実施。
8/13	ノドジロオマキザル	ナナエ♀、夕方、収容時やや動き鈍い。要経過観察。
8/15	コツメカワウソ	わらび♀、昨夜、麻袋がなかったためか朝かなり眠そうにしており動き鈍い。
	トナカイ	ルドルフ♂、右前肢跛行やや重度であった。
8/17	チンパンジー	ルイ♀、ステロイド内服。外展示訓練で完全に全身が出た回数が一気に増えた。久し振りだったためか予想以上に積極的な動きが見られた。
8/19	シンリンオオカミ	シン♂、展示場放飼再開する。動き、収容いずれも問題なし。
	カリフォルニアアシカ	マヤ♂が仕切りフェンスを破ってアイラ♀側に顔を出している状態。外傷はなし。
8/21	猛禽類	ワシミミズク（デボン）とニホンイヌワシ（風）の嘴の形整を行う。
8/24	シンリンオオカミ	ジュディ♀、収容に成功（落とし板）、シン♂、採食不良・嘔吐有り。午前吹き矢による投薬実施。
8/29	アフリカタテガミヤマアラシ	♂♀同居練習実施する。
8/31	キリン	３頭体重測定実施する。
9/10	トナカイ	ルドルフ♂、枯角となったため安全確保のため間接飼育に切り替える。
9/15	ライオンラビット	ショート♀、群れから弾かれ、低体温症状状態となる。病院で処置を行った後、群れ部屋内でケージ収容し、お見合い管理とする。
9/18	チンパンジー	ジェーン♀、ルイ♀今月分の経口避妊薬（マーベロン）投与スタート。ルイ♀ステロイド内服、ボンタ射精確認し回収する。
9/22	チリーフラミンゴ	右赤♀、少々跛行。雛単独でいること多い。
9/24	アフリカゾウ	リリー♀、筋注練習実施（生理食塩水0.5ml入れる）。
9/27	フンボルトペンギン	右オレンジ♂：入院個体（左青黄♀）のペアのため、病院に移動し同居管理。
	ワオキツネザル	白内障・舐性皮膚炎♂・左前肢怪我個体、朝・夕抗生剤内服。
9/30	ミニブタ	とん平♂、豚熱ワクチン接種実施する。
10/1	シンリンオオカミ	シン♂、本日も左肘腫瘤からの出血あり。抗生剤・消炎剤の内服開始。
10/2	シンリンオオカミ	シン♂、左前肢腫瘍摘出手術実施（11：40～15：20）。
10/3	プレーリードッグ	全頭同居。
10/5	ハクビシン	イチコ♀、尾の先端部の骨折判明。その他足裏からと思われる出血確認する。
	ワオキツネザル	ドラミちゃん♀、抗生剤、消炎鎮痛剤内服、舐性皮膚炎３頭、抗生剤内服する。
10/6	アフリカゾウ	リリー♀、採血・採尿・採糞実施。
10/9	ワオキツネザル	A群16頭、抗生剤、ステロイド内服。ドラミ♀、状態悪化のため病院入院。腹部の膿洗浄・消毒。抗生剤、吐き気止め投与する。
10/20	グリーンイグアナ	アナ♀、イグ♂に噛まれ、クレストから少量出血あり。
10/22	アフリカゾウ	筋注生食7.5ml入れる。
10/25	レッサーパンダ	全頭定期駆虫（フィラリア）実施。
	キリン	カンタ♂、夜間から早朝に下痢を含む多量排便（一箇所に）確認。
10/27	ハクビシン	♀１頭、死亡。
	シュバシコウ	越冬舎へ移動。体重（3.86kg。前回比－0.08kg）。
10/29	フンボルトペンギン	右緑赤♂×右赤黄♀。交尾確認。
	ニホンリス	♀２頭搬入（大宮公園小動物園より）。
11/4	レッサーパンダ	体重測定実施。ゆり♀：5.3kg（10/１比-120ｇ）、かんた♂：6.1kg（10/１比±０ｇ）、ひなた♂：4.84kg（10/１比-160ｇ） 小百合♀：5.56kg（10/１比-40ｇ）、ユウタ♂：5.82kg（10/１比-40ｇ）、ケンシン♂5.86kg（（10/１比 -140g）
11/6	アメリカビーバー	チャト♀、口腔内から出血。麻酔下で下顎門歯を２㎝程度切断する。
11/12	ニシアメリカオオコノハズク	カオちゃん♂、嘴異常形のため、整形実施。
11/13	フンボルトペンギン	右赤青♀×右黄緑♂巣内（外巣⑤）に産卵あり。（１卵目）夕方擬卵に交換。
	トナカイ	ルイ♂ 落角（両方）確認する。
11/15	シンリンオオカミ	ジュディ♀、夜間分下痢（部屋に収容したことによるストレスと思われる）。
10/20	ユキヒョウ	リヒト♂、エコーガイド下採血実施。血液採取成功。
	カリフォルニアアシカ	マヤ♂、エコーガイド下採血実施。血液採取成功。
11/21	キリン	ケイタ♂、前日角の先端を擦りむいたが監視カメラで事故箇所を確認（22日対応）。
11/24	フクロテナガザル	性別不明１頭出生。
12/7	フンボルトペンギン	♀１羽死亡（左黄黄♀）。
12/8	キョン	♀１頭死亡（サツキ9206）。
12/9	レッサーパンダ	ユウタ♂、前後肢足裏の脱毛部分の蹠球に発赤および出血あり。
12/10	フクロテナガザル	パパイヤ♂、外展示場に出すが♀ワタル落ち着かず激しく動いたので♂をすぐに戻す。
12/12	マーコール	追尾行動あり。
	ニホンコウノトリ	♀クラッタリング確認。
12/14	ヒツジ	ルパ♀、朝左横臥、起立させるが終日足に力が十分に入らない。骨関節炎症状改善薬注射。
12/23	ツキノワグマ	冬ごもりに向けて餌を減らして給餌する。
	スパールバルライチョウ	♂、採食量少量。消化管運動改善薬投与。
	キョン	ハルカ♀、消化管機能改善薬２種、抗生剤内服。
12/24	ヒツジ	ルパ♀、両後肢に力が入らない様子で、午後２回転倒。
	スパールバルライチョウ	♂、採食量少量。消化管運動改善薬投与。
	キョン	ハルカ♀、消化管機能改善薬２種内服。
12/25	ヒツジ	ルパ♀、抗生剤、ステロイド注射実施。午前４回、午後２回転倒する。
	アカカンガルー	ふみ♀、右後脚と頭に出血痕あり。
	ミーアキャット	川原群、室内に嘔吐痕あり。
	スパールバルライチョウ	♂、採食量少量。消化管運動改善薬投与。
	フクロテナガザル	仔、水っぱな無し。経過観察。
12/26	ニホンカナヘビ	♂１頭死亡。
12/27	ヒツジ	ルパ♀、転倒午前２回、午後１回、抗生剤、ステロイド注射実施。
	フンボルトペンギン	外巣抱卵ペア（外巣⑤⑥⑦⑧）と繁殖ペア（外巣③）の巣入り口に風よけ板を設置。
12/29	マーコール	追尾行動あり。
12/30	ヒツジ	ルパ♀、湯澤獣医師往診、抗生剤、ステロイド注射実施。
	ユキヒョウ	アサヒ、発情兆候と思われる行動あり。

お客さまの声

9／3	コロナでずっと家にいましたが、気分転換になりました！！またがんばります！！ありがとうございます。
10／4	園にはたくさんの方が働いていらっしゃいます。頭が下がります。自然に帰れる選択肢がない動物達の為にもどうかがんばって下さい。園に食物等寄付していらっしゃる方々もいるとわかって胸が熱くなりました。私個人も何かできることがないか考えているところですが…。
10／4	いつも楽しく見に来ています。運営で大変なことが多いと思いますが、自分が小さい時から大森山動物園が大好きです。これからは嫁にも楽しさを伝えていきたいです。
10／24	サンショクキムネオオハシの訃報を知りとても残念です。オオハシくんありがとう。
11／3	動物も見られて子どもの遊具もあって、なかなか秋田市で子どもが遊ぶ場所がないので、大森山動物園はとっても貴重な存在です。
11／30	アカコンゴウインコのメレブちゃんをお世話していたお姉さんがとてもやさしく、丁寧に説明してくれてうれしかったです。ありがとうございます。また来ます！

かたばた通信

大森山動物園がある大森山公園には、緑あふれる広場やキャンプ場、展望台などがあり、展望台からは360°見渡すことができ、日本海や男鹿半島に加え、秋田市街、太平山、鳥海山も一望できます。

たくさんのお客さまがいらっしゃる動物園では、園内を安全に楽しんでいただけるよう職員全員でお待ちしていますので、雄大な自然と多種多様な動物たちが心を癒してくれる大森山にぜひお越しください。（佐藤）

発行／秋田市大森山動物園　〒010-1654 秋田市浜田字潟端154番地　TEL 018-828-5508　FAX 018-828-5509　E-mail ro-inzo@city.akita.lg.jp　デザイン･印刷／秋田協同印刷株式会社

●動物取扱業者／秋田市長　穂積 志　●事業所及び所在地／秋田市大森山動物園　秋田市浜田字潟端154番地
●登録に係る動物取扱業の種別／販売：動-3-41　貸出し：動-3-42　展示：動-3-43
●登録の年月日／2007年6月1日　●有効期間の末日／2022年7月31日　●動物取扱責任者／山上 昇　髙橋 拓

大森山動物園　検索
ホームページ　http://www.city.akita.lg.jp/zoo/index.html